

香川県漆芸研究所

平成30年度 研究生・研究員による修了制作展

香川県漆芸研究所は、江戸時代から受け継がれてきた香川漆芸の技法(蒟醬・存清・彫漆)の伝承と後継者の育成を目的とする全国初の施設として昭和29年に発足しました。創立以来、磯井如真、音丸耕堂ら重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする優れた指導者を講師として迎え、高い技術と精神を伝承してきました。現在までの修了者は434名です。技と心は受け継がれ漆芸作家や漆工技術者として香川の伝統工芸や伝統産業の振興に寄与しています。

この展覧会では、これからの香川漆芸を担う研究生・研究員の一年の成果を発表致します。まだまだ未熟な作品ではありますが、ご高覧頂ければ幸いです。

香川漆芸の技法

彫刻刀や剣による彫りの技術と、黒や朱に加え、彩漆(いろうるし)による色彩豊かな漆の使用が特徴である蒟醬(きんま)・存清(ぞんせい)・彫漆(ちょうしつ)の技法を「香川の三技法」といいます。また、竹ひごを籠状に編んで器物とする籃胎(らんたい)も香川独自の素地制作の技法です。

この展覧会では、これらの技法を用いて制作された作品のほか、様々な漆の表現技法によって制作された作品を展示・販売致します。

蒟醬(きんま)



漆を塗り重ね、剣で文様を彫り込み、彫り込んだ溝に彩漆を埋め、表面を平らに研いで、意図した文様を表現する技法。

存清(ぞんせい)



漆を塗り重ね、彩漆で文様を描き、剣で輪郭や細部に線彫りを施し、彫り口の凹部に金粉や金箔を埋めて文様を引き立てる技法。

彫漆(ちょうしつ)



各種の彩漆を数十回から数百回塗り重ねて彩漆の層(100回で厚さ3mm)を作り、その層を彫り下げることで文様を浮き彫りにする技法。

2019.3.12(火)～3.17(日)

会期中無休・観覧無料

【開館時間】 9:00～17:00 / 最終日 15:00まで

【会場】 香川県文化会館 2階

【アクセス】 ●琴電瓦町駅より 徒歩15分
●JR高松駅より 徒歩20分 or ことでんバス8分「市役所西」下車 徒歩2分
●高松空港より 空港リムジンバス 35分「県庁通り中央公園前」下車 徒歩5分
●高松中央ICより 車20分
※当館に駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用ください。

【お問い合わせ】 香川県漆芸研究所 (香川県文化会館内)

〒760-0017 香川県高松市番町一丁目10番39号

TEL 087-831-1814

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/>

